

灰地 順さん (俳優)

剣道も強くて甲種合格でしたが軍人は。

テレビでは悪役が減り刑事が増えた。

出演したロシア映画はまずベルリン。



— 出身は広島県尾道でござ

いますね。尾道は観光ポイントもたくさんあるし、おっとりした人が多くて文化人も多い…。

灰地 はい。海岸沿いに「尾つ

ぼ」のような「道」が一本ある

ので、それが地名になったそう

です。室町時代には、大阪の堺

から下関の間で一番大きな港

だったそうです。僕、小学校の

ときお寺を調べて綴り方を書い

たんです。足利尊氏が建てたお

寺など四十六もあったことを憶

えています。志賀直哉が「暗夜

行路」を書いた旧居跡とか林芙

美子。中村憲吉という歌人…。

— 「アララギ」派ですね。

灰地 そうです。小林和作とい

う画家…。

— 春陽会から独立美術協会へ

行った方ですね。

灰地 僕は小さいときからよく

存じ上げておりました。先生の

画室には大きな壺が沢山あって

その中に百万円の札束がゴロゴ

ロ入っていたとか。必要なとき

手づかみで出されたそうです。

— 一万円札ですか？

灰地 僕は知りません(笑)。面

倒で、放り込んでいたんでしょ

う。尾道市にずいぶん寄付もな

さいました。山口県出身で、世

界中を歩いた風景画家ですが

「尾道の風景が最も美しい」と

尾道に住んだ方です。

— 灰地さん、学校は(旧制)

六高でしたね。

灰地 はあ。今の岡山大学です。

— 小さいときから学校の成績

が良かったんですね。

— 成績が良かったんでしょ。

灰地 まあね…。

— そうでしょ。

灰地 中学(旧制)で一番だつ

たりしました。本当は一高へ入

りたかったんですが落ちました

(笑)。元来、文科志望だったの

ですが、当時は文科へ入っても

入学したとたんに兵隊にとられ

るんで六高の理科にしました。

理科は「徴兵猶予」でした。

— 反戦だったんですか。

灰地 反戦なんていうんじゃない

んです。僕は中学では剣道部

だったし、銃剣道も強かったん

です。軍事教練でも、大隊長を

やらされていて、九十五点だつ

たんですよ(笑)。

配属将校が「お前、海軍兵学

校へ行くのか、陸軍士官学校へ

行くのか」と聞いたんで「高等

学校へ行きます」と言ったらそ

れから教練の成績だけは急低下。

不思議でした(笑)。「肉弾」な

んていう考え方に賛成できない

とか、「戦争はイヤだなあ」とか

(笑)…。徴兵検査のとき、ぶ

ん殴られました。

— どうしてですか。

灰地 生まれて初めて禪をした

んです。うまく締められない。

前が地面に着くようになってし

まうんです。検査の兵隊は「甲

種合格」のくせにこの野郎、徴

兵免除の理科の学生だ、逃げや

がって…という感情でしょうね。

禪をこんな風に締めて人から

かいがあって…。そう受けとつ

たんじゃないですかねえ。こつ

びどくやられました(笑)。

六高には少佐の軍人も配属さ

れていたし、凄い右翼の先生も

いましたけど、髪の毛も切らず、

ゲートルも巻かず…戦争を嘆い

ている先生もおられました。頭

は坊主頭に、ゲートルを巻け、

という時代でしたけど…。僕の

一年あとは軍事色一色でした。

— 僕は軍に反感をもっていて

配属将校に蹴られましたけどカ

ゲで馬鹿にしていました。でも

一方で海兵、陸士へ行った友人

のことは尊敬していました。

— 理科を卒業すると普通は何

になるんですか。

灰地 理科に甲、乙があります。

僕は乙で、医者コースでした。

— 理乙を卒業…。

灰地 してないんです。理乙に

入って一年で戦争が終わったん

で、文科へ移ったんです。もと

もと医者になりたくて理乙に

入ったのではないので、戦争が

終わって徴兵がなくなったので



Haichi Jun

早速、文科へかわったんです。文科へ『帰った』んです(笑)。

——その文科を卒業なさった。

灰地 そうです。でも僕は戦後の混乱で何をしていたかわからない。学校では絵を描いていました。大阪へ新劇や歌舞伎が来ると見たり、小牧バレエ団のバレエを見たりしていました。

——小牧正英は、日本で初めて『白鳥の湖』を上演した日本バレエの草分けですね。

灰地 そうです。僕はサラリーマンになる気持ちはないし、お役人になる気もないし、音楽や文学は好きでも、その専門家になれる自信はないし……

——でも八田元夫演出研究所へお入りになったんですね。

好きなものがみんなあるから、それをやろう、演出家になろうと思っただけです。実にいい加減なんです(笑)。八田さんのところで勉強しました。八田さんは新協劇団の演出部にもいたんで、新協へ出入りするようになって、新協の演出家・村山知義さんに言われて『死んだ海』で初舞台です。でも役者としての勉強はしていなかったで、その後、五年間は役者の基礎勉強に夢中でした。

——役者になって、映画にもお出になっていきますよね。

灰地 そうです。あの頃は今井正さんの『ひめゆりの塔』。気が狂って裸で洞窟の中で縛られている兵隊でした。沖繩という設定ですが、東映のセットで十一



月でした。水がたまっているんです。そこを津島恵子の先生に指揮されて、香川京子たちの生徒が水を跳ね飛ばして駆けて行くんです。何度もテストがあつて裸の僕に水がかかって寒かつたア(笑)。香川京子はまだ新人でした。通る度に「冷たいでしょ」といつてくれました。嬉しかったですよ。何十年かたつて一緒に仕事をしたとき、そのときの話をしたら「憶えている」

って言っていました(笑)。

——『真空地帯』にも……

灰地 あのときは週番下土官でした。下条正巳(故人)のち『寅さん』のおいちゃん)ともう一人の先輩俳優の兵隊が、病気だといって演習をサボる。兵営に残って花札してるんです。僕が廻っていくと二人は花札を毛

布の下へ隠す。僕は持っていた竹刀の先で毛布をすーつと持ち上げて花札を見つけて、竹刀で二人をぶん殴るんです。花札を取り上げて、だるまストーブに入れて燃やしてしまうんですがまだテストのとき、本当にだるまストーブに入れてしまったんです(笑)。

助監督は「エライことしてくれたなア」と怒る！新しい花札を買ってくるまで一時間の休憩です(笑)。山本薩夫監督は笑って許してくれました。それをその現場にいた西村晃(故人)のち『水戸黄門』が撮影日誌に書いています。

——ほかに家城己代治、久松静児、吉村公三郎、増村保造、五社英雄、堀川弘道……巨匠の作品に出ておられますね。その頃、演劇座を旗揚げするんですね。

灰地 八田さんのところで同期の演出家・高山図南雄(故人)と相談して演劇座を作ったんです。

——井上光晴、花田清輝、秋元松代というような作家の……難しい芝居でした……。芸名が『野本昌司』から『灰地順』に変わった。

灰地 井上光晴さんにつけられたんです。芝居は確かに難物でした。でも演劇座時代のあの十三、四年はよかったです。——テレビもずいぶん……

灰地 大川橋蔵さんの『銭形平次』萬屋錦之助さん、中村吉右衛門さんの『鬼平犯科帳』、『必殺仕置人』……。悪役の一番悪い奴で最後に殺される……(笑)。

現代ものやミステリーでも、若いときは悪役ばかりでしたが、四十五歳頃からもっぱら刑事役になりました。年間三十人以上の刑事役を演じたこともあります。それに年をとって人相が穏やかになつたんでしよう。悪役は激減してきました(笑)。

——今度、ロシア映画に出演なさっているでしょ。

灰地 ソクーロフという監督でロシアやヨーロッパでは有名な俳優です。『太陽』というのが原題で、昭和天皇が主人公です。僕は鈴木貫太郎内閣の安倍源基という内務大臣です。

調べましたら昭和の初めに治安維持法なんか作って思想弾圧して小林多喜二たちを殺した張本人です(笑)。六高の先輩です(笑)。映画は僕が思っているとは少し趣が違うかも知れないと思います。来年二月のベルリン国際映画祭に出すといっていましたから、そこで話題になると日本で上映されるかも知れません。

——楽しみですね。今日は長い間ありがとうございました。